

日本労働年鑑 第50集 1980年版
The Labour Year Book of Japan 1980

第二部 労働運動

XIV 政党

5 公明党

3 大会・中央委員会

(2) 中央委員会

二九中委

公明党第二九回中央委員会は一九七八年九月二八日、東京新宿区南元町の公明会館で中央委員六二人中五二人が出席して開かれた。この中央委員会は半年後に迫った統一地方選にむけて党の態勢固めをはかることを主たる目的とするものであった。冒頭のあいさつで竹入委員長は、福田内閣の経済失政を批判するとともに、不況脱出のため野党側の減税要求を認めるよう要求した。また国会の解散について「景気回復の大事な時期に政治的、経済的空白をもたらす」として反対した。このほか、日中条約の調印を歓迎し、公明党の等距離中立外交に自信をもって今後は対ソ、対東南アジアの友好促進に努めることを表明した。ついで統一地方選準備にふれ、最後に「有事立法」問題で賛成から反対に方針を急転換させたことについて「舌足らずで若干混乱が生じた」と弁明した。中央委は、このあと矢野書記長の「党務報告」、長田総務局長の「補正予算」の説明を受け、質疑ののち両案を可決し、午前中で終了した。

三〇中委

この中央委員会は第一六回大会で承認された新中央委員会の議長、副議長を選出するためのものであった。大会終了直後の一月一九日に九段会館で開かれ、議長に古寺宏、副議長に林孝矩、鈴木仁の各氏を選出した。なお、各都道府県本部大会で選出され、第一六回大会で承認された中央委員は六二人で、内訳は東京六、大阪四、北海道、埼玉、千葉、神奈川、愛知、兵庫、福岡各二、他府県各一で、前年に比し、東京が一名減、他は同じであった。

三一中委

第三一回中央委員会は七九年五月一五日、公明会館に中央委員五二人が出席して開かれた。この中央委は、統一地方選の総括を中心に一年後の参院選、次期衆院選の準備などを目的とするものであった。竹入委員長は冒頭のあいさつで、(1)統一地方選では着実な前進をとげた (2)池田創価学会会長の勇退で公明党の路線、人事が変わるものではない (3)中道勢力は八〇年代の政治を左右する立場に立った。いわゆる「保守・中道の時代」という見方は正しくない。「新しい革新・中道革新」の立場からの「現実的選択」は国民から評価されている (4)衆院解散の大義名分はなく、政治空白をつくる余裕はないが、常在戦場の決意で「行動する党」に徹してたたかおう、と述べた。中央委は矢野書記長の党務報告を受けたあと、小泉隆中央統制委員長の辞任にともなう後任・補充人事があり、中央統制委員長に白木義一郎、中央統制委員に北側義一氏が選任された。最後に

質疑ののち党務報告を可決し、午前中に閉会した。

日本労働年鑑 第50集 1980年版

発行 1979年11月10日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月25日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1980年版(第50集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
